

①現時点で推測されている、今年度の発令日が多かった理由があれば教えて下さい。

⇒今年度の市内の発令日数が多かった理由としては、現時点では関係部署とともに原因について調査している状況であるため、具体的な理由・要因については推測できておりませんが、今年度は、市内だけでなく、神奈川県、千葉県、埼玉県、東京都を含む南関東地域でも、昨年度と比較して発令日数が増えているため、広域的な要素が絡んでいるものと考えております。

②採取方法のキャニスターとサンプリングポンプで分ける理由は何かありますか？

あと、この調査は他の自治体も共同して実施していると言われていましたが、どこの自治体とやっていますか？またその影響の結果は詳細を教えてください。

⇒アルデヒド類はキャニスター捕集では測定できないため、有害大気汚染物質等測定方法マニュアル（環境省）に従い、サンプリングポンプを用いてカートリッジに捕集することで、分析しています。

また、本調査は、神奈川県、横浜市、川崎市から構成される公害防止に係る協議会の枠組みで連携して調査及び意見交換を実施しております。市内だけでなく市外も含めて広域的に光化学オキシダントとVOCの関係性について調査し、他自治体職員も含めて様々な観点からデータを確認し、意見交換を実施することで、考察を深めることができると考えております。

③調査地点が年度で異なっているのはなぜですか？

⇒川崎市は海に面している地域（臨海部）があるため、日中に海から陸にかけて海風が、夜間では陸から海にかけて陸風が吹くことが多いという特徴があります。このため、臨海部と内陸側において、光化学オキシダントとVOC等を観測することにより、光化学オキシダントの生成実態を調査してきましたが、令和4年度以前の調査では、その実態を的確に捉えることができなかったため、調査地点を臨海部寄り（幸測定局）に設定しております。

④調査地点ごとのデータの特徴は何ですか？

⇒データの特徴としては、アルデヒド類が全ての調査地点で比較的高い濃度で観測される傾向にあります。

また、内陸側の地点において、VOC濃度が比較的低く観測される傾向にありますが、これについては、拡散による影響か、光化学反応の進行による消失によるものかを研究している状況です。

⑤質問時間があれば、光化学スモッグ対策について、VOC 成分の特定が進んでいることは結構ですが、その削減がオキシダントの環境基準達成にどの程度直結するのか、NO_x 対策も必要ではないかと思いますが、目標は注意報発令ゼロだけではないはずだと思いますので、このことをお聞きしたかったです。

⇒環境省の報告書によると、南関東地域におけるオキシダント対策としては VOC 対策が重要であることが記載されていることから、川崎市においても VOC 対策を推進しているところです。ただし、御指摘のとおり、オキシダント濃度を下げるには NO_x 対策も重要であることから、今後も市条例や大気・水環境計画に基づき NO_x 対策を行っていきます。